



「19 番目のカルテ」

校長 堀内 篤宏

こんがりと日焼けした生徒の姿をみると、暑さの中でそれぞれの思い出をつくった夏休みを楽しく過ごしたのかなと自分が小中学生だった頃を少し思い出します。

夏休み中に「19 番目のカルテ」という、TBS系列で放送されている松本潤主演のドラマを偶然見ました。第2話、7月27日放送で「ヒーローも、怪獣も、」というタイトルでした。なぜ、19番目のカルテなのかな？ と思い調べると「総合診療科」という診療領域に、2021年に総合診療専門医という専門医が制度として誕生し、もともと専門医には18領域があり、総合診療専門医が19番目だった事が由来のようです。第2話では「ヤングケアラー」がテーマでした。

以下ネタバレあり注意

心臓に先天性の病気を抱えている患者が救急搬送されてくる。14年間彼を診てきた小児科医が処置にあたったが、ほどなくしてこの世を去った。ということからドラマが展開される。亡くなった弟の世話をずっとしていた兄が、歩行困難となり、車いす生活となります。

「俺は悪いお兄ちゃんだから。だって俺、咲（亡くなった患者）が死んだとき……心の底からホッとしたんだ」。弟が生まれたとき母から「咲を守ってあげてね」と言われずっと世話をし、両親が弟のことでけんかが絶えなかったこと、そのことで不安そうにしていた咲に「悪い怪獣はヒーローがやっつける！」と鼓舞していた事等が過度のストレスになり「怪獣とヒーロー」の狭間をさまよい「機能性神経症状」となり数週間の車いす生活となります。<ネット等で見逃し配信視聴できるようです>

ヤングケアラーという言葉はイギリスでは1990年代前半、日本では2020年頃からメディア等で取り上げられるようになり、自治体等でも問題解決の取組がはじまりました。今ではケアが必要な家族がいなくても、本来大人がやるべき家事や家業を担っている子供もヤングケアラーと呼ばれるようになり、大人のケアラー問題も取り上げられるようになりました。

「私」も実家が兼業農家だったので、小学生の頃は家業の手伝いを当たり前のようにしました。地域の農家は稲作をメインにやっていたので田植えや稲刈りの時期は近所の子供達は皆手伝いをしていました。手伝いとヤングケアラーの線引きは難しいですね。

一般的に、自ら選べるか否かが判断の基準になるようです。宿題をしたいのにできない。部活動に参加したいのにできない。友達と遊びたいのに遊べない。疲れてい

ヤングケアラーはこんな子どもたちです

家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている18歳未満の子どもをいいます。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼い子ども向けの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

※昨年度に定義が見直され図に示す事以外の場合も自治体等による支援が必要とされました。

るのでゆっくり休みたいけどできない。etc…

「私」は、繁忙期でも友達と遊ぶ時間もあり、やりたくない宿題の時間も確保されました。田んぼでトラクターやコンバインを運転（畦で囲まれた私有地なので運転免許は必要ありません。念の為（笑））するのを楽しんでいたのがヤングケアラーではなかったようです。

ヤングケアラーをはじめ、様々な事が社会問題となっています。子供本人が選べる状況で、家族の繋がりを考え本人発信で行動できる家庭環境を整える事がポイントになります。お手伝いをする時に 親「今日は3時間△×ができそうだね」 子「いや、1時間が限界かな」 親「じゃあ、2時間で（笑）」というやり取りが家族の価値観共有につながりますね。

因みに19番目のカルテの診療を行っている基幹病院は北海道では札幌医科大学附属病院、名寄市立総合病院など25施設あるそうです。ドラマから「過去の私」を想起した夏でした。

当事者意識を持つということ

性の多様性、夏の学習会、部活動発表会など

夏休みも終え、生徒たちは今夏様々な経験を通して一回りも二回りも大きく成長したように感じました。

休み前に旭川医科大学の学生プロジェクト「MED-EDU」のメンバー15人が来校して「性の多様性」について生徒と一緒に考えてくれました。考え方の違いを尊重し合う大切さについて語ってくれました。

8月の初旬には、北海道大学の学生6名が来校し、例年行っている「夏の学習会」を行いました。普段の授業とは一味違った学びの場で生徒たちは自分のペースで自分の課題に取り組んだり、教え合ったりと自らが考え、行動する力が確実に育っています。

7月には夏休みに入ってすぐに村の行事であるカルチャーナイトに、本校の吹奏楽部が参加、演奏をしました。夏休み前もそれぞれが自主的に練習を重ねてきました。日頃の練習の成果を発揮し、観客の皆さんに感動を届ける演奏を披露しました。一人一人が役割を果たし、仲間とともに音楽を作り上げる喜びを感じる経験となりました。

2学期は行事がたくさんあり、たくさんの「学び」が生まれます。

これからも子どもたち一人一人の「気づき」や「学び」を大切に育ててまいります。

9月 行事予定

- 1日(月) へき地校体験実習(～5日)
全校集会
- 3日(水) 前期期末テスト(～4日)、職員会議
- 8日(月) 芸術鑑賞教室
- 9日(火) 避難訓練
- 10日(水) 3年生学力テスト(総合A)
- 11日(木) 西興部神社祭(1時間授業)
- 12日(金) 委員会
- 13日(土) 全日本少年軟式野球北海道大会
- 15日(月) 敬老の日
- 16日(火) 職場体験(2年総合)
- 17日(水) 英検I B A
第一回学振協の日
マラソン大会
- 18日(木) スクールカウンセラー来校日
職場体験(2年総合)
- 19日(金) 文化祭特別日課開始
- 23日(火) 秋分の日
- 24日(水) 研修日
- 25日(木) 紋別高校1日体験入学(3年総合)
- 26日(金) 給食講話